

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

国際経済論は、国々間の経済関係や、国際経済の枠組みのなかでとらえた各国経済の現象に関する科目である。前半は、国際収支の仕組み、外国為替のメカニズム、経済発展、国際貿易および経済成長の理論の基礎、後半は、国際貿易・海外直接投資、産業集積、社会関係資本・社会ネットワーク、経済協力・政府開発援助・SDGsなど経済発展の諸要因を講義する。国際経済の中で、開発経済アプローチは先進国の発展過程を説明、今後の新興国の成長を理解するのに役立つ。内外の金融商品を提供しているみずほ証券の国際部門・調査部門での実務経験に基づいて、開発経済を含む国際経済の取引実態について詳しく講義する。

授業計画

第1回	講義の概要
第2回	国際収支の仕組み
第3回	外国為替のメカニズム
第4回	経済発展について
第5回	国際貿易および経済成長の理論
第6回	内生的経済成長論
第7回	貧困の罨・所得格差
第8回	中所得国の罨
第9回	国際貿易・海外直接投資
第10回	産業集積について
第11回	社会関係資本・社会ネットワーク
第12回	社会および経済制度
第13回	経済発展の政治経済学
第14回	環境・農村開発
第15回	経済協力・政府開発援助・SDGs
第16回	期末試験

到達目標

- みずほ証券で新興国実務を担当、どのような問題が起き、解決するのかを具体的に説明します。
- ・ 開発経済を含む国際経済に関する理論・用語について、ノートテイキングができること。
 - ・ 国際経済の変化や日本との関係について、考えることができること。
 - ・ 授業やテキストを踏まえて、開発経済を含む国際経済に関する課題について解答ができること。

履修上の注意

30分以上の遅刻は欠席とします。単位取得のため、10回以上、出席してください。指示されたとき以外はスマホを使用しないようにしてください。国際経済論、欧米経済事情も履修することが望ましい。日程調整がつけば、外部講師の話を1回予定。

予習・復習

テキストや自作ノートを用いながら講義の予習・復習をしてください。国際経済の実態についても講義するため、日本経済新聞などをよく読んでください。授業中、小テストに解答できなかった場合、復習として回答を認める。

評価方法

小テスト（50%）、期末試験（50%）。小テストはテキストに沿って毎回3問。

テキスト

教科書名：開発経済学入門 第2版（税込2860円）
著者名：戸堂康之
出版社：新世社
出版年（ISBN）：2021年（978-4-88384-325-1）